

# 厚生文教委員会報告書

平成27年9月28日

備前市議会議長 田口健作 殿

委員長 鵜川晃匠

平成27年9月28日に委員会を開催し、次のとおり議決したので議事録を添えて報告する。

## 記

案 件	審査結果	少数意見
議案第95号 備前市立公民館設置条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決	なし

- 閉会中の継続調査事件の付託について

### <所管事務調査>

- ICTの活用について
- メディアコントロールについて
- 備前まなび塾について
- 加子浦歴史文化館について
- 校庭の草刈りについて
- スクールバスについて
- 図書購入奨励事業について
- 小中一貫教育について
- 児童生徒の問題行動等調査結果について

### <報告事項>

- 平成27年度全国学力・学習状況調査結果の概要について（学校教育課）
- 平成26年度児童生徒の問題行動等調査結果の概要について（学校教育課）
- 採択教科用図書について（学校教育課）
- 備前市まち・ひと・しごと創生長期人口ビジョン（案）及び  
備前市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について（人口減対策監）



《 委員会記録目次 》

招集日時・出席委員等	1
開会	2
議案第95号の審査	2
報告事項	3
所管事務調査	9
閉会中の継続調査事件の付託について	34
閉会	35



## 厚生文教委員会記録

招集日時	平成27年9月28日（月）	午前9時30分		
開議・閉議	午前9時30分	開会　～	午後1時54分	閉会
場所・形態	委員会室A・B	会期中（第5回定例会）の開催		
出席委員	委員長	鵜川晃匠	副委員長	星野和也
	委員	橋本逸夫		津島　誠
		守井秀龍		立川　茂
		石原和人		森本洋子
欠席委員		なし		
遅参委員		なし		
早退委員		なし		
列席者等	議長	田口健作		
	委員外議員	なし		
	紹介議員	なし		
	参考人	なし		
説明員	教育長	杉浦俊太郎	教育部長	谷本隆二
	教育総務課長	芳田　猛	学校教育課長	磯本宏幸
	生涯学習課長	大道健一	人口減対策監	中島和久
傍聴者	議員	なし		
	報道関係	朝日新聞		
	一般傍聴	なし		
審査記録	次のとおり			

## 午前9時30分 開会

○**鵜川委員長** 皆さん、おはようございます。

ただいまの御出席は8名でございます。定足数に達しておりますので、これより厚生文教委員会を開会いたします。

本日の委員会は、教育委員会関係の議案審査、所管事務調査を行います。

なお、議案の審査が終わりましたら委員会を休憩して、予算決算審査委員会厚生文教分科会を開催し、一般会計補正予算の審査を行いますので、よろしくお願いいたします。

また、委員会再開後は所管事務調査に先立ち、執行部からの報告事項をお受けいたします。

それでは、直ちに本委員会に付託された議案の審査を行います。

### \*\*\*\*\* 議案第95号の審査 \*\*\*\*\*

まず、議案第95号備前市立公民館設置条例の一部を改正する条例の制定についての審査を行います。

議案書及び別紙の細部説明書をごらんください。

議案書の15、16ページをお開きください。

議案全体で御質疑ございませんか。

○**立川委員** 200円プラスという条例だと思うんですが、調理実習室というのは何が具体的に変わったのでしょうか。

○**大道生涯学習課長** 東鶴山公民館調理室には今まで冷暖房設備がございませんでした。それを新たに設けましたもので、冷暖房料を徴収する条例ということでございます。

○**鵜川委員長** ほかにございませんか。

○**星野副委員長** 冷暖房費はどういう基準で200円とか300円になるんですか。

○**大道生涯学習課長** ほかの公民館との整合性も含めて、横並びにしたということでございます。200円、300円というのは、広さだと思います。

○**星野副委員長** 広さの何平米以内なら200円とか、何平米以上が何百円といった基準は設けていないんですか。

○**大道生涯学習課長** そこまでの区切りはないと思いますが、個室であれば1時間当たり200円とか、それ以上広くなれば300円です。

○**鵜川委員長** ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、議案第95号についての質疑を終結してよろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

これより議案第95号を採決いたします。

本案は原案のとおり決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認めます。よって、議案第95号は原案のとおり可決されました。

以上で議案第95号の審査を終了いたします。

ここで暫時休憩いたします。

午前 9時35分 休憩

午前10時15分 再開

○鵜川委員長 これより休憩前に引き続き委員会を再開します。

\*\*\*\*\* 報告事項 \*\*\*\*\*

それでは、執行部からの報告事項を順次お受けします。

○磯本学校教育課長 それでは、学校教育課から3点説明と御報告をいたします。

お手元の資料をごらんください。

まず、全国学力・学習状況調査の結果の概要について報告します。この件は既に新聞やテレビ等でも報道されておきまして、先日の一般質問におきましても取り上げていただいたものです。

まず、最初の1ページ目から順次要点のみお伝えします。

この調査は、本年4月21日に実施され、備前市では、小学校6年生275名、中学校3年生318名が受検しました。

まず、学力調査についてですけれども、児童・生徒は国語と算数または数学の知識問題と活用問題に加えて、3年置きに行われる理科の合計5種目を受けています。その表の中の一番左の平均というものですけれども、これは学校教育課で出したものでして、5種目の平均正答率を合計し、5で割ったものです。

小学校では、この平均が備前市63.4であって、岡山県平均を0.7ポイント、全国平均を0.1ポイント上回る結果でした。5項目で見ますと、算数の知識と活用はいずれも県平均、全国平均を上回っておりますが、国語はいずれも、県、全国平均に及びませんでした。

中学校では、平均が備前市57.2であり、岡山県平均を1.0ポイント、全国平均を2.9ポイント下回る結果でした。また、各項目とも全て県及び全国平均を少しずつ下回っております。

次の2ページ、3ページ目には、正答数分布を掲載しています。小学校では、県や全国とほぼ同じような分布になっております。中学校も同じような分布になっておりますが、数学、理科についてはやや下位層の割合が多い傾向が見られます。

続いて、4ページ目からごらんください。

学習状況調査の主な項目のみを掲載しています。

(1)は、家庭学習の状況です。家庭学習については、平日に1時間以上学習する割合、このグラフでいきますと青と赤と緑を合わせた割合ですけれども、小学校では全国を約1ポイント上回っておりますが、中学校では8ポイント下回っております。これが2時間以上、青と赤で見ます

と、小・中とも国を大きく下回っている状況です。学校が休みの日になりますと、小学校では県、全国とも下回っておりますが、中学校では県より多くなっています。

続いて、(2)の娯楽の状況です。平日1日当たりどれくらいテレビを見るかということですが、2時間以上見る割合でいいますと、小学校、中学校とも国、県より割合が少し高い状況です。

続いて、平日にテレビゲーム等をする時間ですが、2時間以上する割合でいいますと、小学校は国や県よりもやや少ない状況にあります。中学校では、2時間以上というふうに限ると、国とほぼ同様、県よりは若干少ない状況です。

次のページに規範意識ということで、学校の決まりを守っていますかという質問に対する答えを載せています。このことについて、当てはまる、どちらかといえば当てはまる、青と赤なんですけれど、肯定的に答えた割合は、小学校では県と同じくらいで、国を上回っています。中学校では、国、県を上回っています。

(4)は、意欲です。自分にはよいところがあると思うかという項目については、肯定的な回答が、小学校、中学校とも国、県を上回っています。

現在、よくできていた問題や課題の見られた問題、家庭での状況など、ほかの項目を加えた資料を作成しており、近いうちにホームページで公開させていただく予定です。

なお、7ページ目が、新聞にも出ておりましたが、県で公表した市町村別の資料です。

この調査は、これまでの取り組みの検証とともに、子供の苦手な分野を把握し、課題の改善に生かすことが目的であることから、今後、各学校においてこの調査結果を活用し、授業や補充学習に生かしていく予定です。また、教育委員会としても学校ごとの状況を分析し、各校への指導に反映させていきたいと考えております。

続いて、2点目です。備前市の平成26年度の問題行動等調査の結果の概要を報告します。これも既に報道されたものです。

まず、いじめの認知件数についてですが、小学校では11件で、中学校では19件となっています。前年と比較すると、小学校で半減し、中学校は倍増しています。ただ、いじめについては岩手県での事件を踏まえて、また都道府県ごとの件数の開きが大き過ぎていたという状況もありまして、文部科学省から再調査の指示が来ております。国、県の状況を10月以降に公表されるというふうに聞いております。

次に、暴力行為の発生状況ですが、小学校が12件、中学校が34件であり、いずれも前年度を上回っています。また、1,000人当たりの割合で見ますと、いずれも県内で最も高い数値となっております。1つずつの案件を見ますと、ささいなことで腹立ちを押さえ切れずに手が出たというものがほとんどで、一方では、学校がそういったこともよく見て指導をしてくださっているなあとも思うんですが、件数が同じような見方をして昨年度よりもふえているということに危機感を感じています。



暴力行為の対応については、小学校、中学校とも生徒間暴力、器物破損が多くなっています。中学校で対教師暴力が3件上がっておりますが、そのうち2件は注意されて腹を立て、教師に筆箱を投げつけた、またマウスパッドを投げつけたというものでした。

最後に、不登校者数及び出現率について説明します。

小学校では、26年度3人の不登校の児童が報告され、出現率は、全国が0.39%、岡山県が0.45%であるのに対して、備前市は0.1%でした。出現率で岡山県と比較すると、22年度から26年度まで、5年連続で下回っている状況です。

中学校では、26年度22人の不登校の生徒が報告され、出現率は、全国が2.76%、岡山県が2.37%に対し、備前市も岡山県と同じ2.37%でした。ここ数年徐々に備前市の不登校の出現率は減少しておりましたが、岡山県の出現率は超えておりました。今回岡山県と同じ出現率になったという状況です。

ここには上げておりませんが、指導の結果状況についてお話しします。

学校では、定期的な家庭訪問等により、担任を中心に支援を継続しておりますが、指導の結果、登校できるようになった、つまり学校復帰できた人数は、小学校では残念ながらおりませんが、中学校では7人おりました。割合は31.8%です。ただ、小学校でも学校復帰には至らないものの、以前は家庭訪問しても会えなかったけれど会えるようになった、完全復帰ではないけれど、部分登校できるようになったといった好ましい状況が見られるようになった児童は3人中2人おりました。

以前は、中学校の出現率が3%を超え、高い状況でしたが、ここ数年不登校の人数は減少しております。特に、3日連続欠席は必ず家庭訪問といった、学校が早期対応に重点を置いて取り組んでいることも減少の要因の一つと考えております。しかし、人数の多い少ないといったことのみでなく、長期化している子もいることから、声の支援を継続し、個々の状況の改善を図ってきたいと考えております。

最後に、教科書採択について御報告いたします。

5月の委員会でいろいろと議論をいただきました。7月30日の教育委員会会議で採択されたものです。平成28年度から31年度まで備前市で使用する中学校用教科書及び平成28年度から30年度まで使用する小学校用教科書を採択いたしました。採択の概要や採択理由については、備前市教育委員会のホームページ及び岡山県教育委員会のホームページに掲載しておりますので、よろしければごらんください。

**○鵜川委員長** 教育委員会関係ではほかに報告事項はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、引き続き中島対策監からの御報告を願います。

**○中島人口減対策監** 地方創生について御報告させていただきます。

総合戦略の策定につきましては、備前市まち・ひと・しごと創生懇談会をこれまでに4回にわ

たり開催し、皆さんからの貴重な御意見をもとに、備前市まち・ひと・しごと創生長期人口ビジョン並びに備前市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）の取りまとめを行いました。取りまとめた案につきましては、9月7日から本日までパブリックコメントを実施しております。本日までで、2件御意見を頂戴しております。

それでは、お手元の資料をごらんください。

お手元の資料につきましては、備前市まち・ひと・しごと創生長期人口ビジョン並びに備前市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要版でございます。最終の確定版につきましては、10月2日の議会最終日に報告させていただく予定としております。

それでは、資料の説明をさせていただきます。

備前市まち・ひと・しごと創生長期人口ビジョンの案をごらんください。1枚目でございます。

本市の人口動態ですが、1970年には5万433人であったものが、2010年には3万7,839人と、40年間で1万2,594人減少となっております。65歳以上の方につきましては、1970年に比べ7,601人増加しており、高齢化率は8.6%から31.5%と大きくなっております。特に、若者の減少が著しくなっております。

出生者数につきましては、2010年から2014年の平均出生者数は219人、死亡者数の平均は523人となっており、その差は304人となっております。出生者数は、近年では2005年の235人から減少傾向にあります。

転入転出者数につきましては、2010年から2014年までの転入から転出を差し引いた平均はマイナス238人となっており、特に20歳代から30歳代の転出が多くなっております。

未婚率につきましては、20歳から39歳まででは1980年の21.9%から2010年には55.6%と大きく増加しております。

資料の下の表の人口ピラミッドにつきましては、1970年——これが左側でございます——それと2010年——右側の青色の部分です——を比較しております。人口ピラミッドを見ますと、ゼロ歳から39歳までの人口減少が著しくなっていることがよくわかるのではないかと思います。

次に、右の上の分析結果のほうに移ります。

人口減少の主な原因は、未婚率の増加、子育て世代の転出が顕著、転出先として近隣市町への転出が顕著、雇用の選択肢が少ないなどといったことが上げられております。

3の将来人口の推計と目標値の設置についてですが、①につきましては、このまま何もしないでいると、2060年には1万4,812人といった推計値が出ておまして、下の左側の人口ピラミッドを見ますと、このように若い世代の減少が著しくなることが推測されております。

また、②で出生率を2020年までに1.70、転入から転出を差し引いた数がゼロ、205

0年に2.08としますと、2060年には2万3,118人となり、下の右側の人口ピラミッド、②の場合の2060年の人口推計のように、若い世代の減少に歯どめがかかるのではないかと推測されております。

こうしたことから、目標値を達成しても、2060年には本市の人口は約2万3,000人となりますが、さらに多種多様な企業誘致、住宅施策の促進や結婚者数を増加させる取り組み、子育て支援策を充実させることで、最終的には2万6,000人を目指すとしております。

1枚めくっていただきまして、次に備前市まち・ひと・しごと創生の総合戦略（案）についてですけれども、今回策定の総合戦略の取り組み期間を国の総合戦略と整合させ、2015年度から2019年度としております。本市の総合戦略の内容は、次の5つの基本目標と具体的な施策のとおりとしてまとめております。

①では、基本目標として子育てしやすい環境を整備し若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえるとしており、2020年までには安心して子供を産み育てることができると実感している市民の割合を50%へ、出生数を252人へ持っていくという目標数値を上げております。具体的な施策といたしましては、以下の13の事業に取り組むということとしております。

②では、基本目標として、周辺市町へ若者が流出している人の流れを変える、人口流出に歯どめをかけるとしており、2020年までには転入者マイナス転出者をゼロ以上にしていくという目標数値を掲げております。具体的な施策につきましては、以下の12の事業に取り組むこととしております。

③では、基本目標として、人を呼び込む魅力あるまちづくりの推進としており、2020年には市の制度等を利用して市外から移住した世帯数を5年間で50世帯、観光客数を年間100万人にするという目標値を掲げております。具体的な施策は、以下の13の事業に取り組むとしております。

④では、基本目標として、「教育のまち備前」をBIZENスタイルとしたまちづくりの推進としており、2020年には小・中学校の充実を——これは市民意識調査による満足度ですが——2.5にするという目標値を掲げております。具体的な施策は、以下の5つの事業に取り組むとしております。

⑤では、基本目標として、時代に合った地域をつくり、誰もが安心な暮らしを守るとともに地域と地域を連携するとしており、2020年には備前市に住み続けたいと回答した市民の割合を60%にするという目標値を掲げております。具体的な施策は、以下の10の事業に取り組むとしております。

これらの施策の取り組みにつきましては、取り組みの難しいもの、成果がなかなか出ないものなど出てくる可能性があります。今後PDC Aサイクルによる検証を行って、必要な見直しと改善を図って事業を進めていくこととしております。

以上で備前市まち・ひと・しごと創生長期人口ビジョン並びに備前市まち・ひと・しごと創生

総合戦略につきましての簡単な概要の説明を終わらせていただきます。

○**鵜川委員長** ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

報告が終わりました。

報告に対する質疑がありましたらお受けします。

○**守井委員** 将来地域総合戦略の中で、この備前の地域をより発展させるためには、政府の動きに順応できるような政策を考えていかなければいけない中で、6ページの地域性のところの交通の結節点といった地域特性を生かしという部分で、市内ではJRの駅もかなりの数があるわけで、そういうところも結節点としての有効活用を図るといふようなところにもう少し重きを置くような文章がどっかへ入ったらいいんじゃないかなというのが1点と。それに整合した事業という形の中で、22ページからの時代に合った地域づくり、この中で小さな拠点づくりといふところにその駅を拠点として考えるならば、小さな拠点の整備というのも考えられるんじゃないかなと思ふんですけれども、駅の拠点性の活用というあたりを何か検討できないかなという感じで思うわけなんです。例えば23ページ、5の3ですけれども、小さな拠点、多世代交流等の整備や地区公民館での行政サービスの提供とあるんですけれども、住みなれた地域で生活が送れるよう小さな拠点を整備します、2015年度以降の5年間の事業計画として、小さな拠点の整備、その中に駅周辺を中心とした整備というものを考えていくべきではないかなと思います。この事業の中には多世代交流センターも一つの発想として考えていかなければいけないんじゃないかなと思います。検討していただいたらと思います。

○**中島人口減対策監** 本当に備前市の場合、公共交通の不便さというのが上げられております。今までにも活性化ということで、JRに対してICOCAとか、そういったものでJRの利用と、駅周辺の整備といったことも上げられております。なかなかJRが相手ということで進んでいないというのが現状でありました。

地方創生の中で、そういった文言を入れる入れんにかかわらず、今後、そういった事業を進めていくということで関連づけて、しっかりと今後皆さんと協議して、どうしたら本当に地域が発展していくか、住みやすいまちづくりになっていくかというものをやっていきたいと思っております。

○**鵜川委員長** ほかに備前市まち・ひと・しごと創生総合戦略に対する質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、人口減対策監には退席をいただきます。ありがとうございました。

暫時休憩をいたします。

午前10時37分 休憩

午前10時51分 再開

○**鵜川委員長** 休憩前に引き続き委員会を再開します。

報告事項を終わります。

\*\*\*\*\* 所管事務調査 \*\*\*\*\*

次に、所管事務調査に入ります。

希望される方の発言を願います。

○橋本委員 まずICTの活用状況を教えていただければと思います。

○芳田教育総務課長 それでは、教育総務課から御説明させていただきます。

本日は、星野副委員長から御依頼のありましたICT活用の概要について資料を提出いたしておりますので御確認いただけたらと思います。

資料の1ページ、2ページにつきましては、ICT活用推進審議会で実施いたしております各学校の研究授業の日程及び内容を記載いたしております。表中の数字は日にちを示しております。括弧は大学教授のお名前を掲上させていただいております。2ページ目は、実践研究内容等を記載しております。

次に、3ページから8ページにつきましては、5月に実施いたしましたアンケート調査の結果となっております。御確認をいただけたらと思います。

〔「委員長、ちょっとこの紙は写りが悪いな」と呼ぶ者あり〕

○鶴川委員長 暫時休憩します。

午前10時53分 休憩

午前10時54分 再開

○鶴川委員長 休憩前に引き続き委員会を再開します。

○芳田教育総務課長 申しわけありません。印刷が悪いのは、実はICT活用推進協議会の大学教授に集計していただいております、データとしては紙しかございませんでした。それを印刷しますと、どうしても色目が悪くなったということで、見にくいかと思いますが、御了承願いたいと思います。

3ページから8ページにつきましては、先ほど5月に実施しましたアンケート調査の結果となっているということで、3ページ目がどの程度活用しているかを教員の皆さんにとったアンケートで、ほぼ毎日が2%、週に1から3回程度が11%、月に1から3回程度が43%、使用しないというのが44%となっております。

4ページ目につきましては、教員のタブレットの印象についてアンケートをとった結果となっております。

5ページ目につきましては、学校でタブレット端末をふだんどれぐらい使っているかという、今度は小学生の結果となっております。ほとんど毎日が5%、次がちょっと見にくいと思うんですが、週に二、三日ぐらいということで16%、週に1日ぐらいというのが23%、ほとんど使っていないが56%となっております。

6ページ目は、児童調査ということで、使い方等についてのアンケート結果となっております。

す。

7ページ目は、今度は中学生の回答になっておりまして、ほとんど毎日が2%、週に二、三日ぐらいが5%、週に1日ぐらいというのが8%、ほとんど使っていないが85%という結果になっております。

8ページ目は、その中学生の生徒調査の結果になっております。

次に、9ページから14ページにつきましては、ICTを使いやすくするための工夫、実践例の一部を載せておりますので、御確認いただけたらと思います。全ての小学校からこういった活用例をいただいておりますが、抜粋して上げさせていただいておりますので、よろしくお願いたします。

なお、この資料にはございませんが、10月17日土曜日の備前焼まつりにおきまして、備前中学校3年生の生徒がボランティアで活動いたします。その活動にタブレットを活用して、駐車場であったり、トイレの位置、そういった会場案内や御来場いただいた方に記念写真を撮影しておもてなし事業をやっていくところで、現在準備を進めているところでありますので、ここで御報告させていただきます。

**○鶴川委員長** 質疑がありましたら、どうぞ。

**○津島委員** やはりあまり使うてねえな。高いツールをあんまり使うてねえから、やはり市長が間違うとったんじゃろうな。それで、教育長、ことし余っとんじゃ、それをどう処分するよう思われとんかな。

**○杉浦教育長** 私も協議会を通じて報告を受けたときに、まだまだ努力が足りないなと思っております。余剰というか、現状で余っているタブレットについては、例えば学校以外の公民館活動であったり、課外活動であったり、そういったところへの転用も含めて、適切にまた配分できるようにしたいと思っておりますと同時に、特に中学校で課題が大きいということで、これは使う側の教員のスキルアップというんでしょうか、教員に対してきちんと最新の情報も御提供しながら、意識改革を少しずつ図っていくというふうなことで、今後も努力を続けたいと思っております。

**○津島委員** 教育長、これことしだけじゃない、生徒数は毎年100人ずつぐらい減っとんじゃ、把握しとろう。毎年100台ずつぐらい余ったら往生するぞ。へえで、一応小・中学校生徒全員に配っとんじゃから、それを余ったからよそへ宛てがうというのは、それはちょっと合点がいかん。教育長はどう思われますか。

**○杉浦教育長** それについては、ただ現状学校に配られているものであるもので、それが死なないように、使い道についてはこれから精査していきたいとお答えするしかないんですけども。

**○谷本教育部長** 少し補足させていただきたいと思えます。

まず、ことしの九十何台の大半は、まず予備機的なもの、壊れたりするのがありますので、それに宛てがうと。それからあと、片上高等学校のほうが今まだ使っておりませんので、そちらに持っていきたいという腹案で進めております。

それから、来年度以降ということも御指摘いただいております。これにつきましては、教育委員会で管理できるような形が一番望ましいと思いますので、まなび塾であったりとか、公民館活動であったり、二次的な利用っていうのも視野に入れて検討していきたいと思っております。

○津島委員 高いツールじゃから、利用方法をよう考えて、全て税金じゃから。市長が身銭を切っとんなら一つも何も言わん。その点教育長は民間におられたからよう知っとられると思うけど、有効利用を頼みます。

答弁よろしい。

○鶴川委員長 ほかにございませんか。

○森本委員 生徒と教師のどの程度利用しているかっていう調査票を見たとき、結果としては生徒の希望が多いんですね。教員のほうが使われてないんで、その辺はどういうふうに考えておられますか。

○谷本教育部長 これを見て最初に、我々としてもまさにおっしゃられるとおりの分析をいたしました。児童・生徒のほうはタブレットを使いたい、使えるっていう期待度は結構高いと思うんですが、残念ながらちょっと先生方が、当然全員ではないんですけども、どっから使おうかっていうのを模索している最中というのが、まさに現時点ということになろうかと思えます。その辺も踏まえまして、ICTの活用推進協議会のほうで、この実践研究をしていく中で少しずつ対応できる先生方がふえてきているというふうな認識を持っております。道半ば、半年ぐらいなんですけども、この後、年度末に同様のアンケートをしたいと考えておりまして、その際にぜひ改善が見られるんじゃないかなと、見たいと考えております。

○森本委員 そしたら、先生の中でどうしても使えないとか、使いたくないっていう先生はいらっしゃるんでしょうか。

○芳田教育総務課長 どうしても使いたくないというのは、まだ現場の声としては聞いておりません。ただ、使い方がなかなかわかりにくいということで、実際ほかの学校から実践研究の授業を見に来ていただきながら、こういう使い方があるというのは先生方もどんどん勉強していただいている状況です。

○森本委員 そうしたら、教員の方は皆さん一度は授業として使われているというふうに受けとめていいんですね。

○芳田教育総務課長 小学校については使っていただいているなど。中学校については、まだ完全なアンケートがとれてないんですけども、まだなかなか使いにくいというところで使っていない先生がおられるかもしれないです。

○橋本委員 私もこの結果を見て、小学校のアンケートだったら、小学生はほとんど使っていないが56%、高い予算を費やしとるのに何で使わんのんだらうかなと。

津島委員が、時期が拙速だったんじゃないかと、私も今に至ってはそのように思います。教員あたりからいろいろな声が持ち上がったものではないと、トップダウンでこれ買うてやるから使

いなさいという事業であるということで、こういうことになつたらんと思いますが、今さら撤退できないし、あるいは撤退してほしくない。そのためには、ほとんど使っていない56%をどうするかということをもっと徹底的に考えて、使わんもんは使えというて教育委員会のほうから半強制的な命令でも出すような格好でこれを有効に活用してもらわんと、我々賛成した議員は、もう本当に大変なんです、こんなもんを買い与えてと。効果的に使えるように、もっと教育委員会は考えて、現場の教員が使い方を勉強するとか、そういうことも徹底的にやってほしいと思うんです。そこら辺の熱意が、どうも教育委員会のほうからも余り感じられないんですが、教育長、いかがですか。

○杉浦教育長 委員御指摘のとおり、まだまだ努力が足りないというふうに私も思います。これまで授業で余り活用をしてこなかった先生方を対象に、そこに絞り込んだ研究授業もこれからやっていきたいと思っておりますし、特に中学校で課題があるという認識のもとに、今回、実は備前中学と御相談をして実際に備前焼まつりで活用していただくという、やはり一つ一つの実例を積み重ねていくことでしか事態は改善しないのではないかと考えておまして、特に使用頻度の極端に低い教員については、教育委員会からも積極的に働きかけをしていきたいと考えております。

○橋本委員 備前中の生徒が、備前焼まつりで観光客の方の写真を写してあげるんだとか、道案内をしてあげるといふことにこのタブレットを使うというのも結構かと思うんですけども、あくまでも我々がこれに賛成をしたのは、学力向上を目指して、当時備前市は、全般的に成績がよくなかったから何とかせにゃならんという思いの中で賛成しとるわけで、多少予算がかかってもいいからこれにいろいろな教育用のソフトを投入して、やはりタブレットを使えば勉強がやりやすくなったなというような格好で、学校の現場もどんどんこれを活用すると、そのためにはソフトを充実させるんだと、そのためには予算をこういうところに投入するんだというかたい意思を教育委員会に見せてほしいと思うんですけども、いかがでしょうか。

○杉浦教育長 全く委員と同じ認識でありますので、ソフトの充実とともに、やはり教員の側の訓練がまだまだ足りないという現状がありますので、他校のいい活用事例もきちんと全体で共有できるように現場を指導していきたいと考えております。

○守井委員 せっかくの新しいICT、先進的にやっているということなんで、ぜひとも十分に活用できるように進めていっていただきたいと思っております。特に中学生は、85%が利用していない、使いにくい何かがあるのかなという感じで、不思議な感じもするんですけども、自由に使えるようなところがなかなかできないのかなと思うわけなんで、週に一度ぐらいは必ずさわるような改善もしていただいて、例えば朝10分でも早く登校してタブレットで字の稽古をするとか、あるいは計算をするとか、いろんなことができるんじゃないかと思うんです。そういうものを必ず週に1回、あるいは毎日1回は何分かでもいいからタッチするんだという時間設定もぜひ考えて、このICTを進めてほしいと思うんですけども、その点いかがですかね。



○杉浦教育長 まさに委員のおっしゃるとおりであります。やはり、一度さわる機会をとにかくつくらないことには改善はできないと思っておりますので、教育委員会からの働きかけが目に見える形で各校に展開できるように、私どもも性根を入れて頑張っていきたいと考えております。

○守井委員 お願いいたします。

○橋本委員 学校でしか使えんというのが、物すごく制約を受けるんじゃないか、家に持って帰らせることも検討すべきじゃないか、そうしないと本当に生きた使い方ができんよという指摘をされる方がおられるんですよ。持って帰ったらインターネットへつないで変なサイトへつなげたり、あるいはゲームをしたりというような弊害が出てくるとは思うんですけど、そういったことができないようにして、少なくとも持って帰ってもいい、持って帰って学習に役立ててくださいというようなことができんもんでしょか。

それともう一つ、先ほどほとんど学校で使っていない教員は、教員すらこれを自宅に持って帰るということはできんのかどうか。もっとなれ親しんでもらわんと、絶対に有効に活用できんと思います。せめて教員からでも自宅へ持ち帰ることを許すというようなことはできませんか。

○杉浦教育長 まさにそう考えていたところであります。ただし、これに関しては各学校の方針もきちんとお聞きした上で、自宅への持ち帰りも選択肢の中に入れて実行していきたいと考えています。実は、子供のほうが持たすと自由な発想でいろいろと可能性を広げてくれるというところもありますので、逆に大人の先生方のほうがもう一つついていけないという現状認識もあります。むしろ子供の声を先生方にもきちんと伝えて、これだけやはり子供が使いたいという意思のあることがわかっているのです、それを先生方の指導にも生かしていきたいと考えております。

○星野副委員長 1ページ目、2ページ目にあります実践研究は議員の視察は可能でしょうか。

○磯本学校教育課長 可能です。申し出ていただければ手配します。

〔「急に行かにゃあおえるか」と津島委員発言する〕

〔「時間が指定されているんです」と委員発言する〕

〔「じゃから、急に行きゃあええんじゃ」と津島委員発言する〕

○星野副委員長 学校でちょっと小耳に挟んだんですが、調べごとと学習などでサーバーのセキュリティがきつ過ぎてなかなかうまく使用できないということを知ったことがあるんですが、そのあたりはどうなんでしょうか。

○谷本教育部長 はっきりと申し上げにくい部分があるんですが、コンテンツフィルタ的なフィルタリングが入っているんだと思うんです。だから、そのフィルターにかかる部分についてははねられると。それを言われているんじゃないかと思うんですが、正直児童・生徒が調べ物をするときにさほど支障になるものではないとは思うんですけども、具体的に確認しないとお答えしづらいところがあります。

○星野副委員長 ぜひ学校に問い合わせさせていただいて、可能であれば少しレベルを下げて、数多

く使えるようにしていただければと思います。

○**谷本教育部長** 仕組みとして、今ははねているのが15字句あったとして、これを調べるのに困るってことだったら、これは通すというような形での対応にならざるを得ないと思うんです。そこら辺は専門的に調べる必要があるんで、Aのレベル、Bのレベルっていうことを選択は、ちょっとできないと思います。

○**星野副委員長** 次ですが、5月定例会でふるさと納税によるソフト導入費用がついていたと思うんですが、入札等が不調に終わったということも聞いています。その後の流れを教えてください。

○**芳田教育総務課長** 入札を完了いたしまして、9月18日に片上小学校でソフトを入れて、ふぐあいがいいか調査等を行っています。10月から各小・中のスケジュールに合わせてながら導入していく予定になっております。11月末には終了するという予定です。

○**星野副委員長** わかりました。

○**鶴川委員長** ほかに。

○**石原委員** 我々議員もそうですし、市民の方がもしこのアンケート等の結果をごらんになったら、本当に愕然とされると思います、賛否両論ある中で。

その後、どういう活用をされておるのかということに関心の高い方も大勢おられます。だから、学力向上等の効果を検証以前の問題で、とにかく使われていない、効果の検証以前の問題でそもそも使われていけませんので、そこを本当にとにかくさわって、使ってというところに注力をしていただきたいのと、それから、このままほとんど使われずに放置されるような状況が続けば、それこそ子供のためにもよくないと思う。ある中学生でしたか、子供さんにもこの間言われまして、タブレットほとんど使ってないし、せっかく学校へ入ってきたタブレットもずっと使われずじまいじゃけどというようなことで、子供さんも本当に、そういう税の使われ方という教育上も、本当に今のままでは悪影響を及ぼすんじゃないかと思えますので、しっかり取り組んでいただきたいのと、現状学校によってもタブレットの管理の仕方というのは違うんかもしれんですけれども、近くの小学校では夜間などは鍵のかかる職員室近くの事務室であったり、そういうところへわざわざ全てのタブレットを運び込んで施錠をして帰られる、また使うときにはその全てを随時教室まで運ばないといけんということで、その管理の仕方も、多少使われ方にも影響があるんじゃないか。以前話題にもなったとは思いますが、管理の仕方でも充電保管庫の導入が見送られています。各教室で充電しながら管理ができればより使いやすい環境が整うんじゃないかと思うんですけれども、充電保管庫の導入なんかについては、今のところどのようなお考えをお持ちでしょうか、予算の関係もありましようけれども。

○**杉浦教育長** いろんな意味で環境整備がまだまだ足りないというふうに認識をしております。ふるさと納税の使い道としても、私どもも少しでも現場の要望に沿ったお金の使い方ということを目指して基金を設定させていただきたいと思っているので、個別の各校との御相談にはなり

ますけれども、ICTでここまで使いづらい環境を何とか整備したいという御提案があれば、私もそれに向けてきちんと整備をさせてもらうといったことで、保管庫についても当然対象になってくると思いますし、そのソフトについても対象になってくると考えています。

○**鶴川委員長** ほかにございませんか。

○**立川委員** 本当にこれグラフを見るととんでもない話ですが、この中でなぜ使用できないのか。44%の教員さんに使用しないという方がいらっしゃる。操作ができないのか、活用方法がわからないのか、そういった分析はされていますでしょうか。

○**谷本教育部長** 当初の説明で申し上げたように5月時点でのアンケートです。ICT活用協議会の大きな目標として、授業等で有効活用をしていく、それについてのやり方、例えば授業のどの場面で使えるよとか、授業外でもどういうふうに使えるよとかいったような情報の共有と、それから大学の先生方の経験に基づいた提案っていう形で、これを改善していくっていうのが大きな目的の一つになっております。

ですから、この5月時点では非常に悪い結果なんですけども、今こういった実践研究で、これ1人の先生が携わっているんじゃなくて、1個の授業で教室いっぱいになるぐらい、ほかの学校からも先生方が見に来られたりしています。そういった中で、あっ、この授業で使っているこのやり方は、私の授業のここで使えそうだなとか、そういったような知恵というんですか、そういったものを取得していただいて、そういった場に行っているところがございます。ですから、それが広まっていけば、一つの学校でそういう工夫をし出したら、もう私はちょっとっていうような先生方も、それを見てこれだったら使えるかなとハードルを下げると、そういう作業が今まさに進んでいると考えています。

○**立川委員** ですから、基本的に操作性に問題があるのか、活用方法がわからないのか、今の答弁ですと、どのステージでどう使う、うちはこのレベルで使えますよ、それはあくまで発展的なものであって、本当に取り組むというんですか、その辺はクリアできているのでしょうか。

○**谷本教育部長** 両方とも問題があると思います。タブレットはある程度使っている、個人的とか、家族が使っているからっていうような先生方は比較的取り組みやすい部分はあろうかと思います。ただ、どうもタブレットはっていうふうに思われている先生方については、まずどうやって使うのかっていうところは当然出てくると思います。

○**立川委員** 先般夏休みにも操作性その他の研修会もされたということで、個人的にちょっとあちこちでお尋ねしてみたんですけどかなり温度差があるなと思います。はなからこんなもん要らんよと、もうこの辺にかたまっちゃっている先生、おっしゃるようにやろうかっていう先生、いろんな先生がいらっしゃると思うんですが、その辺をクリアしないと、次のステップへ行かないような気はするんですけども、その辺本当にその原因、それに対する対応策、それしていただけたらいいなと思います。

それともう一点、そこまで利用されて、この一番後ろにもあるんですけど、その上にまた電子

黒板というのがありましたよね。これ日生西小さんですか、これテレビで十分やなという気はするんですけど、その辺も踏まえた利用方法というんですか、何か今宝の持ち腐れの的なことを危惧するんですが、その辺はいかがでしょうか。

**○芳田教育総務課長** 14ページに電子黒板があるということなんですが、実際この授業ではモニターに電子黒板で子供さんたちの発表するデータを映して、子供さんはタブレットを見ながらこの授業の中で全ての機械を使いながら授業を進めているということですので、電子黒板をこの授業では使っていないということじゃなくって、いろんな場面、場面で使い方を考えながらやっていただいているのが現状です。

**○立川委員** いや、そういうことじゃなくて、例えばこれでも問題点として出てきているのは、使う側にしたら、板書ができないから消すんやというようなことがありますよね。こういう感覚が現場の方にあるんじゃないかなという気がしてしょうがないなというお話なんですよ。

だから、もう一ついえば、ツールを使いこなすための、先ほどおっしゃったように当初の取り組み、こんなもん使われんわと。じゃあ、これプロジェクターで映さなくても、ディスプレイでもテレビでいいじゃないというような感覚、ステップ、ステップ、ステージ、ステージの皆さんの情報共有というんですか、教員さんの中で温度差があるのは当たり前だと思いますが、ある程度統一的なもので使っていかないと。本当にこれだったら、じゃあ大型テレビください、要らんのでしょうかということにもなったり、当初お願いしたら、いや、いろんな使い方があるんですけど。この参考事例を見たら、やはりかなというがっかりするようなレポートになってしまうので、その辺本当に最初に申しあげましたけど、例えば反転学習を進めるんだと、この学校はこうするんだと、知識その他は、先ほどちょっと出ましたけど、ここは手でやってきてくださいというふうなモデル授業にするんだとか、そういったことも踏まえて、ツールの使い方、もう何遍も言いますが、本当に現場に聞くとこんなもん使われへんわという温度差が非常に気になるので、機器もツールもひっくるめて使い方をぜひ、もう何回も出ていますが税金をつぎ込んだわけですから、ぜひお願いしたいなと思います。

**○杉浦教育長** せっかく議会でも御承認をいただいて購入したわけでありますから、このアンケートも、要するにアンケートで終わるのではなくて、きちんと課題を洗い出して一つ一つクリアして潰していくためのアンケートだと私は思っています。

実際、8月の協議会でも、大人数でやっていると話がなかなか深まらないので、グループディスカッションをして、現場の先生方がどういうところに悩み、どういうところが各校の課題になっているかということも実は1時間ちょっと議論をする時間をつくりました。そこで例えば、それこそ持ち運びできるケースがないからなかなか校内の教室外に持ち出して活用したりしたくてもできないんだとか、かなり具体的な課題も見えてまいりましたので、そういったことをとにかく徹底的に洗い出して一つ一つ潰していくということはお約束したいと思います。

**○立川委員** ぜひお願いしたいと思います。環境整備がまだまだのような気がします。やはり不

安な先生のお話しか余り聞こえてこないんですよ。例えば各校へSEを張りつけるとか、そんなことでもしていかないと、操作性の面からもというふうな気がしますんで、ぜひ問題点を洗い出して潰してほしいなと思います。

○**鶴川委員長** ほかにございませんか。

○**石原委員** 確認なんですけれども、1ページ目の先生方のお立場は、どういう方でしたかね。

○**芳田教育総務課長** ICT活用推進協議会に参加していただいている大学教授の先生方です。

○**石原委員** 多くの大学ともろもろの連携協定を結んでいますけど、この先生方は協定を結ばれとる大学の先生方じゃあないんですか。提案も含めてなんですけど、もし教育分野でも連携を図った協定というのがあるのであれば、そちらの教授のみならず、日程等の都合でなかなか難しいんかもしれんですけど、学生にもICT教育に関して御協力いただいたり、一緒に取り組みを働きかけてみたりというところをぜひ、せっかくの協定ですから。もし可能性があればそういうところも御検討をいただければと思いますけど、どうでしょうか。

○**谷本教育部長** タブレットを使った授業自体が、全国的にもまだ十分浸透していないというところがありまして、この協議会は、それぞれお一人お一人大学が違うんです。連携協定を結んではおりませんが、この分野におけるトップ的なお立場の先生が携わってくださっていて、それぞれの実践研究のときにも進行からこういうふうにやりましょうというように全部仕切っていただいていると、それぞれ手分けをしてお願いできているという形になっております。

御提言の連携協定でっていうことも、それも当然次の段階であってしかるべきだと思いますし、御提案いただいたように大学生の皆さんが携わってくれるというのもまたいいんじゃないかなとは思っていますので、今後そういうのを展開できたらなと思います。

○**鶴川委員長** ほかにございませんか。

○**津島委員** タブレットは導入してしもうたんじゃからしょうがねえけど、教育長はタブレット導入の提案の際にはおらなんだから、教育長にはあえて言いません、今後のことを言います。

タブレットというのはどうも中途半端で、ガラケーとパソコンのあいのこで、それで今小学校高学年から中学生になったらスマートフォンのほうがおもしれえんじゃな。何でいうたらLINEがやれるし。教育用のソフトを入れとるだけじゃたら一つもおもしろくないから。

それで、今回僚議員から持って帰ってまでタブレットを使わせるというたら、これはセキュリティーに困る。いい子ばっかしならええけど、家へ持って帰ったら兄貴がちょっと出せというてほかのやつに売り飛ばしたり、メリットばかり考えたらいけんよ。もうはや小学校の高学年になったらたばこを吸う子がいっぱいおるんじゃから、知らんだけじゃ。

それから、タブレットにかじりついたら学力が低下するというて、この前私が新聞の記事を読んだでしよう、ああいうことも信憑性がないことはないと思うんじゃ。それで、さっき教育長がそこへ座る前に、教育の原点は人なりというて聞いとるわけです。読み書きそろばんができん子に強制的に市長が強引に押しつけたタブレットを小学校の1年生から習えというて、先生も

わずらいます、若かい先生ばかりじゃねえから。導入した以上、使わなんたら非常にもったいないことになりますけど、やはり読み書きそろばんを教えて、それでも物足りなんたらタブレットを教えりゃええと思う。恐らく小学校の低学年だったらできん子がおるんではないんかと思うし、それからまた、教育ママはちゃんと買うちゃつとる、学校の教育用タブレットを宛てがう前に、はや何やかんや進んだ塾へ行かせたり何やかんやしょうるから、やはり幅広く見て、タブレットにとらわれんようにするほうが私はいいと思います。

それが、備前中の卒業式にも、入学式にも行ったんですけど、靴を脱いだらかわいい生徒が2階の図書室へ連れていってくれました。それで、女の子にタブレットを使うかというたら、はい、1回だけ使ってみましたと言っていました。それが現実。それで、何で突然行かにゃあいけんかというたら、三石小学校へタブレットを見に行ったら、もうはや先生が構えとるわけじゃ、それで教室の後ろには百均で買うたんか知らんけど、かごへたくさんタブレットを突っ込んで、困りようりますと言ようりましたけど。教育長が知っとかにゃいけんのは、鍵つき充電保管庫は電子黒板にかわつとりますから、予算が。私がなぜ今鍵つきの充電保管庫を買わんのならとうるそう言うかといえ、その予算は、はやもう市長がぼんと電子黒板にかえとんですわ。じゃから、そこを今度は——市長の権限が多くなつとるから——教育長自身が、あとほかの者は誰も言えりゃあせんが、教育長が頑張らにゃあ、今もうめげとんじゃから、うちの教育委員会は。何でかというたら、委員では高橋さんがちょろっと講師で教壇に立つとるだけで、何ぼNHKのお偉いさんだった教育長でも教壇に立ったことはねえはずなんじゃ。じゃから今後も、市長がこれせえというて独断で言うてきて、それがほんまにええんか悪いんかというのを、今までは皆のんどるけど、それはちょっとやめたほうがええと思います。

教育長は、タブレットのことはまあ責任とらんでもええよ。じゃけど今後のそういう、市長の独断と思いつきのそういう件がまた、これはちょっとどねえなかよう検討してみにゃあおえんというのはどんなか、うのみするか、検討するか、教育長の腹をちょっと聞かせてください。

**○杉浦教育長** 私は任命された立場ではありますけれども、その案件、案件できちんと私の意見は申し上げております。実際、市長の発案されたことでも、今教育委員会にとってまだ時期が早いとか、もっとほかに振り分けてほしいという場合は、お断りさせていただいた事例も実際にございます。議会にはそれをつぶさに御報告していないということもあるとは思いますが、やはり対等の立場で市長には私からも物を申し上げているということを述べさせていただきたいというふうに思います。

これからもその姿勢は変わりませんし、もっと現場の声を聞いてくださいということも再三申し上げていて、だからこそ今回のふるさと納税の使い方にしても、基金にして現場が最も望む学校づくりをしていくために使わせてほしいというふうをお願いをして、御承諾をいただいたところであります。

**○津島委員** 以前、市長がロボットを買うたるというて、ほんまの話なんですわ。教育長が断つ

た。そしたら、ひどく怒られたらしい。買うたると言うのに、何でいらんのならというて。それは事実ですから、そういう事例もあったから、だから教育長には、しっかり元気を出してもらおうかなと思うて私は提言しとんですよ。よろしく頼みます。

○橋本委員 最後に、タブレットに関連してなんですけれども、お隣の赤磐市がベネッセと提携をしてタブレットを使ってやると報道がありました。このあたりは、備前市教育委員会としてはどういうふうな状況になっているか調査研究をされてはいないですか。というのが、備前市はもうハードから入って、そういうところを一切抜きにしてやってきた経緯があるんですけども、どうも現状を見るとうまくいってない。赤磐市はどうなんかなと思えるんですけども、そこら辺は研究されてないですか。

○杉浦教育長 ICTに限らずなんですけれども、今備前市教育委員会として、学校の教員だけに任せるのではなくて、チーム学校、地域、それから外部のベネッセであったり、外部の機関との連携で教育の質を高めていくという基本方針で運営をしていますので、せっかく協議会があるので、その協議会の場で、備前市はここが弱いから、例えば支援員をもっと増員しようとか、きちんとソフトの運用、使い方についても外部の力をかりていくといったことは、当然これから検討をしてみたいと思っています。

○橋本委員 恐らくこのタブレットを使った教育というのは、かなり先駆的なほうで、全国的にもまれな部分なんです。そうすると、ソフトのほうがなかなか充実してないというか、間に合っていない。そういう中で、ベネッセさんみたいに餅は餅屋みたいな部分があると思うんです。素人が一生懸命考えて、ないソフトを探し回るよりも、ああいうところは最初からタブレットを使ってこういうふうに教えようというノウハウを研究して持っておられるわけですから、そういうところを活用するというようなことも今後検討してもいいんじゃないかなと。それがために、赤磐市はうまくいっているのかなと、あるいは備前市みたいに余りうまくいってないのかなという、一度調査をしてみる必要があるんじゃないかなと思うんですが、いかがでしょうか。

○谷本教育部長 それはぜひ調査したいと思います。

○橋本委員 お願いします。

○鶴川委員長 ほかにございませんか。

○森本委員 学校によって偏りが出ていると感じておられますか。

○杉浦教育長 正直、大変偏りがあると思っております、特に利用が進んでいない学校について、これからこ入れをしようと考えているところです。

○森本委員 全校を回ったわけじゃないので何とも言えませんが、やはり偏りがあるところへ行けば進んでないという印象を受けても仕方がないと思うので、早急に横並びになるように取り組んでいただきたいと思っています。

○鶴川委員長 ICTの関係はほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、それ以外の件でどうぞ。

○橋本委員 タブレットをしっかりと使いなさいと言いながらもこういう話をするんですけれども、岡山県教育委員会が公表しました、進んで積極的に取り組もうというメディアコントロールです。備前市ではどうなんかなという事で尋ねますと、以前伊里中学校区共通ということで、メディアスリム化大作戦という資料をいただきました。ただ、県が声高に午後9時以降のスマホ禁止だとか言っている割には、備前市は比較的そういったことを余り、児童・生徒あるいは保護者への通達が見えてこないんですが、そこら辺はしっかりと対応されているのでしょうか。

○磯本学校教育課長 先日もお話ししましたけれど、スリム化については先ほどおっしゃられたように、全中学校区で取り組んでいます。チラシ等については、県の教育委員会のホームページにもございますけど、保護者宛てに県教育委員会から出たものを個別懇談のときに直接お渡しして話をしてくださいということで配布といった形で働きかけていただいております。

また、昨年度ですけれど、スマートフォン、ゲーム等の使用に係るルールづくりということで、それぞれの学校にお願いして、児童会、生徒会等とも連携しながらルールを作成して進めていこうということで学校にはお願いをしております。ただ、できれば中学校区でまとまって同じようにということですが、そこまでは進んではないようですけれど、学校ごとのルールはできているというふうに聞いております。

○橋本委員 そこら辺が、県では、もう9時以降はスマホをやめましょうというようなことをキャッチフレーズに打ち出して、メディアのスリム化を声高に唱えておると。

備前市の教育委員会は、余りそんなことを言わずに、各中学校区でそれぞれ自主的にそういうことをやってくださいと、どうも教育委員会の影が薄いんですよ。備前市の教育委員会も、県の教育委員会の呼びかけに呼応して市全体で頑張るんだという、そういう意欲が余り見受けられないんですよ。教育長自身、このメディアコントロールの必要性は痛感されておられるのでしょうか。

もう一つは、そういう成果がこれからあらわれると期待をしっかりとよろしいのでしょうか、課長の答弁で、これからどんどん成果が進むんだろうかと、この2点についてお答えください。

○杉浦教育長 まだ道半ばでありまして、その決意が見えないということであれば、さらに見える形の努力をしていかなきゃいかんというふうに思っております。

実は今までの備前市教育委員会のやり方というのは、あくまで学校を通じてということだったんですが、どうも保護者に十分届いてないという認識が私もありますので、間もなくですけれども、実はPTA連合会の会合に私初めて参加することにいたしました。その場でもかなり重要なテーマとして直接PTAの幹部役員の方々にスリム化のお話をする機会を実は設けていただくことになっております。やはり、私の教育長としてのメッセージをどうやって学校現場だけではなくて直接保護者に届けていくかということが重要だと思いますので、まずはその取り組みを一生懸命やっていきたいというふうに思います。



それとあわせて、恐らく年内には県の教育委員会からも、実は今学習のスタンダードってありますけども、学校と家庭を両輪として岡山県のスタンダードをつくる方向で検討していると先日県の教育長からお話がありました。恐らく年内に発表される段階で、それに呼応する形で保護者への訴えかけをしていくということを考えております。

○磯本学校教育課長 成果についてですけれど、少しでも成果が上がるようにということで取り組んではおります。ただ、それで成果が上がるっていうふうにお約束はできません。ただ、上がらなかつたら違うやり方を考えて取り組んでいくというのが私たちのスタンスではないかと思えます。

○橋本委員 そういった方向で、備前市教育委員会として情報を発信する、例えば、学校を通じてでもいいですから保護者に対して教育長名で呼びかけ文なりをこしらえて、子供たちの教育のためにこうあるべきじゃないか、9時以降は禁止しましょうというようなことを家庭で話し合ってくださいと。それから、備前市のホームページ、広報なりでどんどん教育委員会の考え方を市民にお伝えする、そういう努力は教育委員会としてはやられていますでしょうか。

○磯本学校教育課長 スマホに限定したものではないんですけれど、備前市のまなびの7カ条ということで毎年保護者宛てに配付していただいて、家庭での育ち方を見守っていただくということはしております。

○橋本委員 以前まなびの7カ条も問題になったんですけど、学校現場すら知らなかったというようなこともあったんですけど、以前には。それは、今徹底されよんですけど。こういったいろんなことをいっぱいお願いしたら焦点がぼけてしまうんです。それよりも、例えばメディアコントロールで、今全国的に家庭学習の時間が短い、9時以降もスマホを使ってLINEだ何だかんだで余分な時間をどんどん使うということが大きな問題になつとるわけですから、それで県の教育委員会が、全国的には他の市でそういうことを1市だけやっておる、それを県単位でやろうということを打ち出したわけですから、備前市も呼応して、それらを積極的にアピールすべきじゃないかなと思うんです。そこら辺、もう意見になりますけれども、全力を挙げて取り組んでいただきたいなと思いますので、よろしく願いいたします。

○鵜川委員長 今の橋本委員の件に関連して、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、関連で、交代してください。

〔委員長交代〕

○星野副委員長 委員長職を交代いたします。

○鵜川委員長 教育長から、学校の現場の先生もさておきPTAにそういったことを積極的に働きかけていくというお答えをいただいたんですが、私が一番危惧するのは、往々にしてそういうケースで起こるのは、学校現場の先生はそんなことを知らん、教育長が勝手に言よんじやろうというようなことが起こる可能性はないのかなと、今そのお話を聞いていて思いました。

私も一般質問させてもらいましたけれども、現場の先生方に教育方針、すなわち教育長の思い、考えが浸透して、その上にそういうPTAがあれば、私はそれにこしたことはないと思うけれども、それがなくて、教育長がトップダウン的な考えでPTAにぽんと言う、あるいは書き物を渡しても、これを見て、いや、知らん、そんなことは聞いたことないよというようなことを心配するんです。そういうことのないようにしていただければ、それにこしたことはないんで、その辺についてどう思われているか、教育長にお尋ねします。

**○杉浦教育長** そういったことも勘案したからこそ、今回中期計画を教育委員会独自でつくるに当たって、学校の現場の先生方、それからPTA、そういった方々の意見をきちんと反映させる場として、ロードマップの作成プロジェクトみたいなものをつくろうとしておりますので、決して学校現場を飛び越えてやろうとしているものではありません。きちんと学校現場にも、今まで以上に私の考えをいろんな形で発信して伝えていく、ディスカッションする場所はこれからもふやしていくつもりでありますので、委員からの御指摘、肝に銘じて進めてまいりたいと思っております。

**○鵜川委員長** 一般質問のときには教育長のお答えが現場ではしっかり理解できんのですね。でも、帰ってみて、その答弁を見させていただきました。これまさに教育長の熱意が、その一般質問の場よりも、帰って見ることによって、はあ、こんなことを言われていたんか、そりゃ気がつかないけど、すばらしいなあと思って、私は感心したんですよ。私はこの教育長じゃったら備前市の教育は変わると思うたんです、私が本当に思うたことを言よんです。私は期待しておりますので、ぜひ教育長の大なたを振っていただいて、緻密に皆さんとコミュニケーションをとるようになっていただけたら、私はもう言うことはありません。

答弁要りません。

**○星野副委員長** 委員長を交代いたします。

[委員長交代]

**○鵜川委員長** ほかにございませんか。

**○橋本委員** 次のテーマで、学力向上についてお尋ねをいたします。

教育長は、今備前まなび塾の塾長という立場にあります。各公民館等々でまなび塾をやられておられるんですが、それに関して総括的な御意見はございませんか。うまくいっていますとか、あるいはこういうところを改善しなきゃだめですとか、いろんな考え方があろうと思われるんですが、教育長の受けた印象として。

**○杉浦教育長** 委員会ですので忌憚なく申し上げますと、大変不満足です。もちろん地域の皆さん、大変一生懸命やってくさっていることには頭が下がりますが、もう少し戦略的というか、目的意識を持った運営というのができないかなと考えております。単にああいう場をつくりましたと、助成がおりましたというだけでは不十分で、データに出てくるのは国語と算数、数学、理科でありますけれども、実は最も学力向上で危惧しているのは、一番今備前市でてこ入れが必要

なのは、実は英語だと思っております、実際の授業を見たり、それからさまざまな機会、先生方とも話をする中で、実は内心では備前市の最大の課題は英語教育だと。言葉の上ではグローバル化とか気持ちのいい言葉が並んでいますけれども、他の市町村、自治体の事例を見るにつけ、備前市の英語教育、正直かなり全国レベルから見ても危惧する状態にあるんじゃないかというふうに思っておりますので、まなび塾に関してもよりバックアップ体制を整えて、実は英語に関しては地域とも御相談しながら、英語教育もまなび塾の一部として取り入れていきたいと考えております。

ICTもちろん、先ほど御指摘がありましたとおり、むしろ学校外のまなび塾みたいな形でどんどん子供たちが活用していけるような方法を探りたいとも思っておりますし、実はまなび塾ってもっと、当初は子供が中心なわけですけども、大人と一緒に学べるようなテーマがあってもいいのではないかと。やはり徳育というか、人間として当たり前の品格をつくる教育というのも、授業という形ではなかなか難しいのかもしれませんが、外部から積極的にまなび塾にそういった分野の専門家を呼んで、例えば3こま目にそういう講演をやってもらうとか、実際に外で体を動かすまなび塾があってもいいと思っております。やはりそういった面で、健全な精神というのは健全な肉体に宿るっていう方向性も含めて、まなび塾の方向性を少し変えていきたいと考えております。

**○橋本委員** 教育長は、この備前まなび塾の模範となるところがどこであったかというのは、恐らく聞かれていると思うんですが、大分県の豊後高田市。備前市では、本当に準備期間がわずかでスタートしたという歴史もあるんですけども、備前市は小学校の3年生からを対象としている。ところが、豊後高田市は小学校1年生あるいは幼稚園の子たちから、英語教育も含めてまなび塾をやっていると。後発した備前市そういう格好でスタートしたというのが実情なんです。そのときかなり議論したんですけど。いろんなところにお金使うのもいいですけども、やることを徹底的にやる方向で進めてもらいたい。そういう英語教育でも、一朝一夕にはできんですから、小学校の低学年のときから、あるいは幼稚園児からというような格好で進めていく、それについて予算措置が必要ならば、豊後高田市よりも予算規模なんかうんと低いんですから、備前市は、こういうところにもっと予算をかけていく。

それから、一つ不満なのが、教育委員会が、例えばスポーツ少年団だとか、いろんなところに対して余り強く言わないんです。土曜日に練習をやっている、土曜日のまなび塾のあるときにはちょっと遠慮してほしいというふうに言うのが私は教育委員会じゃないかと思うんですけど、もう自由なんです。だったら、スポ少に行く子は、まずまなび塾には来ません。だから、組織率なんか余り報告がないんですけども、余りよくないんじゃないかなと。

それから、3月、4月、5月に休塾するような塾はだめだと。そのころは前の学年の復習で一番大切な時期なんだから、それもやってくださいと言っても、どうも教育委員会はやらんのです。ぜひ教育長のもとで積極的に改革をしてほしいなと思います。塾頭なんですから、よろしく

お願いします。

答弁は結構です。

○**鶴川委員長** 暫時休憩をいたします。

午後0時02分 休憩

午後1時00分 再開

○**鶴川委員長** 休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

引き続き所管事務調査を行います。御意見のある方、お願いします。

○**橋本委員** それでは、生涯教育の件をお訪ねいたします。

備前市に歴史民俗資料館、埋蔵文化財センター、加子浦歴史文化館、それから吉永に美術館とあるんですが、今度備前焼ミュージアムが開館されるけれども、これは教育委員会の所管じゃないということで、これだけ特異なんですけれども、基本的にこれらの今後をどうするのかという点についてお尋ねしたいんです。

備前市の公共施設白書ということで、将来的には統廃合等を含めていろんなことをやっていかんやあならんというのはよくわかるんですが、差し当たって、例えば日生の加子浦歴史文化館なんかはどうするのかということなんです。

といいますのが、この夏休みの期間中にちょうど企画展をやっております、私も行ったんですけども、館内がむっとして暑いんです。それで、施設長に聞いたら、何かエアコンが4台あるうちで、まともに作動するのは1台しかないんじゃないというような答えが返ってきたんです。こういったことは、生涯学習課で把握されているのかどうか。把握しとって直さんということは、さっきの学校再編の話じゃないけれども、もう統廃合するための事前の布石を打ちよんじやろうかというふうに思えるんです。ところが、備前市の歴史文化基本構想にはそういったことも全然触れられておりません。これらの施設を将来的にどうする意図を持っておられるのか、お尋ねをします。

○**大道生涯学習課長** まずもって、加子浦歴史文化館のエアコンの件ですが、申しわけないです、聞いていないんです。ですから、閉館ありきの施策ということではございません。

○**橋本委員** 教育長にも確認したいんですけれども、加子浦歴史文化館、何回かのぞかれたことがあるでしょう。暑くなかったですか。

○**杉浦教育長** 暑かったです。

○**橋本委員** 何で直してもらわんのかと言うたら、予算がなかなかつきませんという話でした。ただ、そういうことを把握してなかったということなんで、施設のほうから要求をさせますので、来年閉館にしないんだったら、あそこは備前市唯一の有料館ですんで、お金払って中に入った人にあんな不快な思いをさせるというのはよろしくないと思いますから、ぜひともお願いします。

○**杉浦教育長** お話を伺いましたので、対策をとらせていただきたいと思います。

○橋本委員 それと防犯カメラのモニターが映とんですよ。ああいういろいろなものを展示しておいて、以前あそこで盗難事件が発生して、再発防止のためにつけたんだということなんですけれども、8つ画面があるうち、半分の4画面しか映とらんです。聞いたら、カメラが壊れとるんですよね。これらについては修理してほしいという予算要求をした経緯があるんだと。今の方は新しい方ばかりで、引き継ぎもされていないと思うんですけど、これらについて、課長は把握をされておりますでしょうか。

○大道生涯学習課長 担当からそういう話がございます、伺ったところ、どうも昨年度予算要求をしたらしいです。ただ、つかなかったと。ことしは私が見積書を預かっておりますんで、28年度要求には上げていこうという思いでございます。

○橋本委員 そういった場合に、もう教育長だけ別格の方なんですから、あるものが使えないというのは極めて、今のエアコンの問題にしてもそうですし、防犯カメラの問題にしてもそうです。そういうものを財政当局が査定の段階で落とすというのは、極めて不謹慎だと思うんです。我々もそういうことは、館長から聞いて初めてわかることで、そういうことがあってはならないと思うんで、新規事業をどんどんやろうとするのもいいですけど、あるものを完全な形で運営できるようにすることに今後留意していただきたいんですけど、いかがでしょうか。

○杉浦教育長 これは、やはりお客様をお迎えする施設ですので、財政当局から落とされたからといって、素直に引っ込むほうがおかしいと私は思いますので、反論する根拠を持って、きちんと予算を通していくようにこれからも努力してまいります。

○橋本委員 ぜひよろしく願いいたします。課長も今の教育長の答弁を聞かれて、肝に銘じてこれから財政当局と当たっていただきたいと思います。

それから、あその施設長が来年定年退職を迎えるということのようで、その後のことが大変心配なんだということも漏らされておりました。

私も、平成27年度の施設評価シートを見てお尋ねするんですけども、加子浦だけを捉えても話が通じんで、片上の歴史民俗資料館と比較をしたいんですけども。平成26年度、歴史民俗資料館が175万円の人件費、これは臨時の学芸員の方が2名おられる——2名でもこんなに少なくはないわな、人件費というのは臨時が入とらんのだろうと思うんですが——それが、27年度は1,110万3,000円、これ直接事業費と含まれたものかどうか。あるいは、加子浦歴史文化館の人件費が、昨年度は814万円ほどあるんですけども、これが今度当初予算では、全体で508万6,000円と大幅にどんと減とんですけれども、この理由というのはいりませんか。将来的にここをどういう体制に持っていくのか。備前市の歴史文化基本構想では、将来的には観光的な分野をもっとクローズアップして、観光客にたくさん来てもらおうという計画もあるんですけども、私はここの体制をもう少し充実せんと、そういうことにはならんのかなと思えるんですけど、根本的にどういうお考えを持とられますか。

まずは、事業費のほうをわかれば教えてください。

○大道生涯学習課長 後ほど御報告させていただきます。

○鵜川委員長 暫時休憩します。

午後1時11分 休憩

午後1時14分 再開

○鵜川委員長 休憩前に引き続き委員会を再開します。

○橋本委員 それから、教育長、いろいろな公共施設が、合併の段階からそれぞれに点在してあったんですけども、やはり統廃合というのは必要だと思うんです。それについて、例えば吉永の美術館なんかは、今は公民館の方が維持管理されておると聞いておるんですけども、恐らく年間の入館者数なんか物すごく少ない状況になっておるんじゃないかと思うんです。ぼちぼち基本的な方針を教育委員会のほうで煮詰めて、どういうふうに統廃合していくのか、そのためには、例えば歴史民俗資料館なんか、古い建物で恐らく耐震基準も満たしてないんじゃないかと思うんですけども、そういったものも含めて統廃合を考えていくべきじゃないかと思うんですが、いかがでしょうか。

○杉浦教育長 やはり地域の拠点としての役割をきちんと維持しつつ統廃合をしていくということが必要になってくると思います。それこそ長期の視点での計画が何もない状態ですから、そういったことも今実は、全てにおいて教育委員会改革の一番の肝で、計画性を持ってきちんと道筋を示し、御相談しながら進める仕事のやり方っていうんでしょうか、それが必要だと思います。まさにこの分野も、子供たちにとっても貴重な歴史を学ぶ場でもありますから、そういった視点も入れながら、まずは中期計画をきちんと立てるということが重要なのではないかと思います。

○橋本委員 その中で、教育長、先ほどの加子浦歴史文化館なんですけれども、ここだけが唯一有料館ということなんです。これは合併前からそうっておるんで変更してないんですが、私は最近の風潮を見て、やはり入場料を取られるんだったら行かまあかという方は結構多いんですよ。昔はそうじゃなかったんですけども。無料だったらろくなもんを置いてないんじゃないかということで、入ってくれないということで有料にしたという経過、経緯、私も当時の日生町議会議員で認識しておるんですけど、もう事ここに至っては、いつまでも有料館ということで走っていくのがいいのかどうか、再検討をしていただきたい。もしここを有料館として残すのであれば、歴史民俗資料館、埋蔵文化財センター、こういったところも有料館にしていく必要があるんじゃないかと。そうじゃなくて、私は加子浦歴史文化館も無料にしてもいいんじゃないかなと思うんですが、そこら辺も含めて一度協議をしてみてもらえませんか。

○杉浦教育長 今の御意見を踏まえて議論をさせていただきますが、世界的に見ると、例えばそうそうたる収蔵品を抱えているイギリスの大英博物館、これ原則無料なんです。それで、そのかわり入り口に障害物のようなでっかい募金箱があって、要するに意識の高い入館者がその施設を維持するためのお金を献金というか、投入していくという方式もありますし、やはり地域の歴史を伝える文化拠点に関してはきちんと議論をして、無料化も含めてこれから検討をしていきたい

と思っております。

**○橋本委員** そういった中で教育長もマスメディア出身の方ですんで、PRの必要性、宣伝広告の必要性というのは痛感されておるんじゃないかと思えます、NHKにはCMがないんですけど。

先般ここで企画展をやっていることを市のホームページに載せてくださいと課長にお願いして、即対応してくださりありがとうございます。今の施設長にお聞きしますと、PRのための予算が非常に乏しいと。歴史民俗資料館はホームページを持つとんですかね。ここはホームページがなかったり、あるいはいろいろなポスターなんかで宣伝広告をしたくても、財政が厳しいから予算化できないということで、プラスアルファの部分をいただけなかったりと大変もんとされております。そういう部分に、一生懸命やろうとしておることについては、それらを助長するような格好で対応していただけたらと思うんですが、いかがでしょうか。

**○杉浦教育長** 加子浦に限らず、私はまだまだ備前市全体の発信力が十分でないと思っております、私のようなマスコミ出身者だからこそできることもたくさんあると思えますので、私自身ももちろんこれから積極的にかかわっていきたく思いますし、市のほうでもっとやるべきだということに関しては、関係部署にもきちんと働きかけをしていくということを考えております。

**○橋本委員** ありがとうございます。ぜひよろしくをお願いします。

それで加子浦歴史文化館がよく備前焼、あるいは閑谷学校に絡んだ企画展をしようとするんですけど、どうも教育委員会ではそこら辺を余り快しと思っていないというんですか、備前焼は埋蔵文化財センターもあるし、日生の加子浦がやるべきじゃないんじゃないかとか、閑谷学校も、何もそこがそんなことをせんでもええがなというような感じにとられておるみたいなんで、私は備前市は一つであって、日生の加子浦歴史文化館が備前焼に絡んだ企画展なり特集をやるとか、閑谷学校のことを広く宣伝するとか、日生には結構お魚を求めて観光客も来ます。そういった人らがちょっと寄っていきこうかということで、備前焼や閑谷学校のPRをするというのは、非常に有意義だと思うんです。だから、そういうところにもっと理解を示していただいて、積極的にそれらを進めるという姿勢が、私は必要なんじゃないかなというふうに思うんですが、教育長、いかがでしょうか。

**○杉浦教育長** 私も各施設の連係というのは非常に重要だと思います。特に、県内全体もそうですし、備前市でも回遊性ということが議論されている中で、やはり加子浦単独にこだわらず、例えば加子浦で備前焼を見た人が伊部を訪ねる、その逆もあるでしょうし、そういった相互交流を促すような新たな回遊モデルをつくっていけるように発信も努めていきたいというふうに思っております。

**○橋本委員** ぜひよろしくをお願いします。

**○大道生涯学習課長** 先ほどの件でございますが、平成24、25、26年度は、それぞれ直接事業費と人件費で分かれております。27年度の当初予算508万6,000円につきまして

は、直接事業費のみの計上でございます。人件費は入っておりません、臨時賃金は入っておりますが、正職は別に上がっております。

○橋本委員 よくわかりました。ただ、それにしましても、歴史民俗資料館は直接事業費が900万円から1,100万円と約200万円ほど伸びております。ところが、加子浦に関しては、540万円が508万6,000円ということで、わずかですけれどもダウンしております。こういうところから見ると、今後も加子浦のほうはぼちぼち閉館に持っていこうとして教育委員会を考えておられるのかなと推測されるわけですよね。だから、そうじゃなくてこういう理由なんだというのがはっきりわかれば、そういったことも伝えて、加子浦もぜひ必要なんだよということを書いてほしいんですよね。公平公正に扱っていただけたらと思います。

○鶴川委員長 ほかにございませんか。

○森本委員 ほかの学校の状況がよくわからないんですけど、伊里認定こども園も小学校も中学校も校庭が非常に広いので、美化というか管理に大変苦勞をされているんです。先生方は大変ですから困りますとは一言もおっしゃらずに、校長先生も朝早くから草引きされたりとかいろいろしてくださったり、地域ボランティアの方もしてくださったりしているんですけども、この夏は、やはり猛暑のためにやはり自分たちも高齢化で、草刈りとかを頼まれて行くだけけれども、年々大変厳しい部分も出てきているっていう話も地域ボランティアの方からお伺いしました。

それで、非常に広いので業者とかは入られたりしているのでしょうか。教えてください。

○芳田教育総務課長 校庭の草刈り等は、業者は入っておりません。PTAとかボランティアの方とかでやっていただいております。教育委員会の職員も草の回収とか、夏はずっと回ったりしております。

○森本委員 ボランティアの方がしてくださっている、PTAも年に1回ですけど奉仕作業をしたりしているんですけど、少子化で世帯に1人出ればいいという方式なので、正直人数が減っているのも確かで、伊里小学校なんか予備日をとって、当日参加できない方は別の日に参加してくださいという形をとったりして、全員が協力してもらえるようにはしているんですけど、昔だったらその作業の日に大体きれいに終わっていたんですけど、最近はやはり残しがあるのが現状なので、今だったらできなかった部分は先生がかわりにしているとか、本当に日常的に先生もすごく努力して美化に努めてくださっているし、ボランティアの方もしてくださっているんですけども、それがいつまで続くのかなって思ったときに、今後教育委員会としては、どうされるのかを考えておられますか。

○芳田教育総務課長 まだ考えている段階ではあるんですが、実際にこの10月1日からスクールバスが運行になります。夏休みなどはスクールバスがございません。そういった中で運転手の方で機械を使ったことがある方とかもぜひ御協力いただきながら、夏の期間であればそういった作業もできるのかなということで、今はまだ全く検討段階ではあるんですが、なるべく経費をか



けず、できるところからやっっていこうという思いは持っております。

○森本委員 もちろん保護者も積極的に協力するようには言っていますが、ボランティアの方もしてくださるとは思うんですけど、いかんせん高齢化が進んでいるので、この夏は大変厳しかったということを皆さん口々に言われたので、それでも頼まれたら協力はしますという返事は返ってくるんですけど、自分たちも年齢が高くなるのでいつまでできるかなって話も言われていたので、いかんせん範囲が広過ぎるので、大変かとは思いますが、よろしく願います。

○鶴川委員長 ほかにございませんか。

○橋本委員 スクールバスの件でお尋ねいたします。

いよいよ10月1日からスクールバスを市の直営で走らせるということなのですが、もう準備万端整って、地域の説明とかも全て完了しておるんですか。

○芳田教育総務課長 準備万端というお話になりますと、車両のほうは30日にプレートの交換も含めまして、ぎりぎりまで作業はあります。地域の方といますか、利用される保護者に向けて、きょう学校のほうへ許可証等を持っていっておりますので、スクールバスの運行に関しての周知、準備についてはおおむねきょうで完了するかなというふうを考えております。

○橋本委員 今回日生運輸さんからバスの運転手を市のほうが引き受けるに当たって、基本的に路線バスのほうに若手というんですか、若干年齢的に若い方を入れて、スクールバスはちょっと高齢の方を充当するというふうにお聞きしとんです。ことしはいいとして、来年、再来年と退職される方の補充というのまで含めて教育委員会がやっていかにやあならんわけなんですけれども、そこら辺についても十分覚悟があるのかどうか。比較的早く新陳代謝をしていくような格好になるんじゃないかなと想定できますので、どんなでしょうか。

○芳田教育総務課長 委員御指摘のとおり、どんどん高齢化も進んでいきます。当然大型二種を持っておられる運転手というのは、募集してすぐ集まるというものでもございませんので、今おられる運転手の方の情報網等も活用しながら、採用に向けては情報提供もしていただきながら運転手の確保はやっていきたいというふう考えております。

○橋本委員 今回市が直営でやることで、一ついいことがあるのは、学校、園の関係でいろいろな行事、あるいは対外試合に行くというようなときに、教育委員会にお願いをしたら、バスを派遣してくれるということ、今までの議会の答弁の中でそういうことが可能になるということをお聞きしたんですけど、そこら辺の話は順調に進みよんでしょうか。言うだけじゃなくて、私はぜひ実際にこれを実行に移してほしいなと思っておりますけど、どうでしょうか。

○杉浦教育長 今具体的にどういう形があり得るのかを検討させています。それで、私も直接保護者や先生方とお話をしたときに、真っ先に出てくるのはそういう、課外学習のときに保護者の負担感がすごくあるというようなことも伺って、そういったところも無償でできるようになれば、かなり助かるんだがという話も直接伺ったんですが、そういった現場にきちんと意義のある

というか、お金の使い方であれば、そういった経費は惜しむべきではないというふうに考えております。

○橋本委員 それらについては、学校行事であるとか、部活であるとか、そういったことに恐らく限定してだろうと思うんですけども、こういう運用規定でやりますから要望があったらぜひ言ってきてくださいということを教育委員会として各学校、園にその旨の通知を出すべきだと思うんですよ。まだ、どうも話を聞くとそういう通達は出しておらんのですか。

○芳田教育総務課長 実は、スクールバスの運行規則をあす教育委員会会議で諮って、可決されましたら、その中の内規として、運用方法として学校にこういう行事には使えますよということで提示させていただこうと思っております。

○橋本委員 教育委員会事務局をお願いをしておきます。私はこれが市営化するたった一つのメリットだと思うんです。ぜひ、学校あるいは園にそういう活用ができるようになりましたと周知してほしいなと思います。よろしくをお願いします。

意見でいいです。

○鶴川委員長 ほかにございませんか。

○星野副委員長 図書購入奨励事業についてなんですが、図書カードの教育委員会関係の配付状況をお教えてください。

○大道生涯学習課長 まず、高校生世代でございます。対象人数1,013人に対しまして、先週金曜日末で931人交付しております。91.91%、残り82名でございます。

なお、なかなか引きかえに來られなかったもので、9月11日に未交付者に対して再度案内をしております。

○芳田教育総務課長 教育総務課では、学校から中学校、片上高校が対象なんですが、配付枚数にしまして2,448枚で、購入が2,500枚で、2名なんですけども、実は伊里小学校のほうで海外へ転出された方がおられまして、その方々の分は交付できなかったというところと、あと実は100%の数で購入をしております。その中で、片上高校で面談の中でお渡しをする話をしているんですが、保護者の方が要りませんということで拒否されたケースがございまして、当然高校生ですので、保護者の意思にかかわらず、子供さんの意思があればということで今学校にお渡しして何とか子供さんの手に届くように進めているところです。

○星野副委員長 わかりました。

片上高校以外の高校生82人分が残っていることなんですが、たしか締め切りがこの月末の9月30日だと思うんです。あと82人に配り切るためのこれからの対策とか、締め切り時期をちょっと延期するっていう考えはあるんでしょうか。

○大道生涯学習課長 100%が理想ではございますが、今まで皆さんに9月末までが引きかえ期間ですという御案内をしつこいぐらい差し上げてますんで、延長する気はございません。

○星野副委員長 延長する気がないということですが、小・中、片上高校分も合わせてですすけ

ど、余ってくる図書カードが出てくと思うんです。人数に合わせて買ってないという話だったんで最終的に余りが出てくと思うんですが、その余りの図書カードっていうのはどうされるんですか。

**○芳田教育総務課長** 教育総務課では、先ほど申しましたとおり購入した分は全て配付です、余りは出てきません。

**○大道生涯学習課長** 生涯学習課分につきましては、あとの保健課とかの関係もあったりしまして、市の一本的な考え方のもとに行わなくてはいけないと思っておりますので、9月30日をもって、10月以降に再度協議することになるかと思えます。

**○星野副委員長** わかりました。

次に、小中一貫教育の基本計画についてですが、たしか市長の2月定例の答弁だったと思うんですが、平成27年10月までに基本計画の素案を策定し、平成28年度から導入作業を進めたいという話だったんですが、現状をお教えてください。

**○磯本学校教育課長** 今事務局で素案の作成を進めております。教育長から中期的な計画ということでロードマップの作成ということが出ましたけど、それとあわせて校長、それから保護者の方にもんでいただいて、基本計画としてきちっとしたものになりたいと考えております。

**○星野副委員長** ちまたのうわさでは、何かモデル校を設定してこういう取り組みをやってほしいというので進みつつある学校があるって聞いているんですけど、そのあたりの現状も教えてくださいなればと思います。

**○磯本学校教育課長** 教育委員会のほうで、本年度伊里小・中学校を研究指定といたしまして、取り組みを進めていっていただいております。ただ、全ての教科というわけにはなかなかまいりませんので、英語を中心に進めていただいているところです。この夏にも合同の研修会であるとか、それぞれ部会に分かれて先生同士がこういうふうに進めたらいいのではないかというふうな話し合いをしていただいております。

**○星野副委員長** わかりました。

**○鶴川委員長** ほかにございませんか。

**○石原委員** 報告にあった問題行動等の調査結果についてなんですけれども、今の先生方は体罰はだめでしょうし、生徒さん、児童さん、携帯電話も使いこなされて、いろんな大変な面があり、それから中学校の先生に至っては、もう血気盛んな中学生をお預かりする、本当に大変さをお察ししますけれども、そういう中で昨年度の問題行動の中で、ちょっと目にどうしてもとまったのが暴力行為、備前市が他の自治体に比べても異常な数字が見えまして、これは裏返していえば、生徒さんの状況を先生方、学校側がより細やかに状況を把握されとる結果でもあるのかなと。この暴力行為等の基準というか、何か判断される線引きとが、自治体によってかなり差があるのかな、どうなのかなというところで。

**○磯本学校教育課長** 正直言って、ほかの自治体がこういうふうにしているっていうのはつかん

でおりません。ただ、文部科学省の調査の中で、暴力行為というのは自校の児童・生徒が故意に有形力を加える行為として、例えばとして対教師暴力だったら、指導されたことに激高して教師の足を蹴ったとか、教師の胸ぐらをつかんだ、養護教諭目がけてものを投げつけたとかというふうな具体例が、今までこれ上がってなかったものをこういう例は上げてくださいますということを書いてあるんだと思います。ただ、これをどれぐらい学校のほうが暴力行為という認識をして上げてくるかのかっていうところで差が出るのではないかと思います。実際に、例えば小学校の例でおとなしい子の手をつねっていたというの、指導をして暴力行為だということによって上げてきた学校もありますので、そのあたりで、委員が言われたように、私は学校がきちっと暴力行為という認識を持って捉えてくれていることで件数が上がったのではないかなとも思っています。

○石原委員 ありがとうございます。

暴力の種別の中で、小・中学校ともに生徒間の暴力がやはり多いようなんですけれども、この生徒の間で暴力行為があったという事実の認識はどういう状態で、生徒さんから先生に暴力振るわれましたとか、暴力振るう現場を見られたんか。小学校では8件、中学校では18件ということで、どういう状況がその裏にあったのかなど。何かわかれば。

○磯本学校教育課長 やはり一番多いのは、本人からの訴えであったり、本人が泣いていたので聞いたら、そういう状況がわかったというのが一番多いです。また、教師が見たというのもありますし、それはさまざまな場合があります。

○石原委員 ありがとうございます。

それから、教育長に関してなんですが、午前中からの御答弁なり、お言葉をお聞きしていても本当に、ある程度その言葉に、文言に心が込められているかというのも我々もある程度理解はできるつもりでおりますので、本当に心の込もったというか、強い言葉を発せられとるなという印象を受けています。

特に、最近で言いますと、印象に残りましたのはせんだって香登の小学校での運動会を教育長が取り上げられて、フェイスブックに上げておられまして、その言葉に本当に感銘を受けまして、学力向上は至上命題ではあるけれども、その前に、学力以前にたくましい心と体があってこそというようなところで、そういうようなところにしっかり注力していくということ、保護者の皆さんにも責任を持ってお話をしながら進めていくというようなところに大いに感銘を受けたんですけれども、そのフェイスブックなりを見られて、地元の保護者さんたちの間でもちょっと評判になっていまして、教育長の教育に対しての思いをいま一度表現していただければと思います。よろしくをお願いします。

○杉浦教育長 フェイスブックという極めて限定的なツール、メディアではあったんですけれども、通常はせいぜい多くて2,000ページビューぐらいなのが、実はきのうの段階で1万を超えてまして、恐らく世の中に同じ思いを持ってくださる方がそれだけ多かったんだなというふうに思います。

見ていない方もいらっしゃると思うので、香登の場合は、騎馬戦と組み体操についてコメントをいたしました。それで、それが非常に子供たちの熱意も伝わってきたし、それをはだしでやるんですよ。はだしでやるためには、地域の皆さんがどれだけ汗を流してグラウンド整備をされたかとかということまで想像ができたもんですから、それらをまとめて書かせてもらったんですけども、やはり勉強せえ、勉強せえだけで、子供が勉強をしないっていうのはみずからの経験でもわかっているところで、先ほども申し上げましたが、健全な肉体に健全な精神が宿るということで、特にこれから私が決意を固めたのは、先日の香登の運動会と、その前の日生のFOS少年団です。あそこで友情と規律と奉仕という、今の学校教育が残念ながら失いつつあることというのは、実は一番これから重要になってくるのではないかというふうに考えておまして、それできるだけ見える形でいろんな施策に反映させていただきたいというふうに思っております。

**○石原委員** ありがとうございます。

昨年度来、備前市教育委員会ももろもろ出来事もあったり、市民の信頼を失墜するようなこともございましたし、先ほど午前中にもあったICT関連での不十分な面もありますし、そういった教育長の強い思いをぜひ全面に出されて頑張っていたいただければと思いますし、出てくる議案や予算等については、あくまで我々も是々非々で判断させていただくんで、精いっぱい頑張っていたいただきたいと思います。

**○杉浦教育長** ありがとうございます。

**○橋本委員** 先ほどの学校における問題行動に関連してなんですけど、私以前の議会からずっと聞いてって、備前市、特に県内では常に高いんです。その都度、何でもかんでも報告しようたらこうなるんだということで、教育委員会自体が余りこれを大きく捉えてないような部分があるんです。じゃあ、どういったものが基準で、県の教育委員会に報告しておるのか、そこら辺をある程度基準を合わすべきじゃないかと。さっき課長が答弁をされた、ちょっと子供がつねってもそれが暴力事件だということでの把握で、そういうのを1件にカウントして報告するとかというようなことしていたら、必ず件数的にはうんと伸びるんで、私は何でもかんでも、それでもいじめられたというふうに本人が申告すればいじめになるんですけれども、そうしないための何らかの方策というようなことは考えられんのですか。余り大騒ぎをし過ぎとんじゃないかと、学校現場も教育委員会もというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

**○磯本学校教育課長** 実は、これ何でも上がっているなというのは、私もそういう思いもあって、それぞれの例について、先ほど申しました文科省のこういう例は暴力行為で上げてくださいというのと照らしてみました。ただ、そこに出ているのと照らすと、やはり暴力行為と言わざるを得ないんで、それが書いてあるのにここは下げてくださいというわけにもいかない。

**○橋本委員** それは、何でもかんでも書いていることに、ああ、これに該当するんじゃないかという目で見たら、大概のものが該当します。だけど、我々の時代のことを言えば、そんなものは日常茶飯事であったことで、これをあえて、ああ、暴力行為だ、いじめだというて報告する必要

があるのかなというふうに思えるんです。ほかの自治体と備前市の違いがこちら辺で出てきょんじゃないかなと。じゃから、備前市は常に岡山県下で高いんです。

以前は、ある中学校の特定の人物が1人で点数をいっぱいやっとなるからだというふうな説明を受けとったんですけど、その子が卒業したって、やはり備前市は岡山県内で一番悪い、しかも突出しとんです。これはやはり何か根本的なところに原因があるんじゃないかと思えるし、これをじゃあ何とかしようという対策が教育委員会で徹底的に取り組みにやならんのではないかというように思うんですが、私はやはり対外的に恥ずかしいんです。備前市じゃというて言うたら、ああ、あの暴力行為が一番多いところかというて言われそうで、ぜひそこら辺を、教育長の強い姿勢をちょっとお聞かせください。何とかしてください、これを。

○杉浦教育長 これまで教育委員会の説明、代々聞いてきても、やはりきちんと包み隠さず申告しているからという説明でずっと来ていたということなんですけども、だからといってこの数を放置していいことでは全くないので、きちんと申告しつつ減らしていく方法っていうのをさまざま考えていかなきゃいけないということなので、そういう意味もあって、そういう人格教育というか、そういったところをもっと徹底的にやりたいと思っているんです。やはり人を思いやる心であるとか、奉仕の精神であるとか、感謝の心であるとか、そういったことが本当に子供たちに定着していくことが結果としてこういう暴力行為の減少に、甘いと言われるかもしれませんが、そういった減少につながってほしいなと思っているところです。

○橋本委員 ぜひ、それらを実際の行動で生かしてください。思うだけじゃどうにもならんので。お願いします。

○杉浦教育長 具体的に見える形でやってまいりますので、御支援またお願いします。

○鶴川委員長 ほかにございませんか。

○星野副委員長 同じところなんですけど、いじめと暴力行為の発生件数が平成26年度は若干高目ということですが、たしか平成26年度の学力テスト、その学年がたしか県下でも上位にいたというふうに認識しているんですが、何か矛盾するところを感じるんです。これは該当する学年以外で問題行動が多いのか、それとも去年の3年生も入れて全体として多かったのか、そのあたり分析とかはされているんでしょうか。

○磯本学校教育課長 中学校の傾向として、1年生、2年生とふえていて、3年生で減る傾向があります。ですから、全国学力を受けた学年は少なかったという状況です。

○鶴川委員長 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、以上で所管事務調査を終わります。

\*\*\*\*\* 閉会中の継続調査事件の付託 \*\*\*\*\*

次に、この際、閉会中の継続調査事件の付託についての御協議を願います。

事務局から説明させます。

○**議会事務局** お手元に、6月定例会最終日議決をいただきました閉会中の継続調査事件の付託表をお配りいたしております。

公共交通に関する事務をまちづくり部から市民生活部に移管するための議案第121号市の組織及び任務に関する条例の一部改正が、本定例会で既に原案どおり可決されています。本条例が、予定どおり10月1日に施行されますと、厚生文教委員会、総務産業委員会の所管事務の一部に変更を生じることになります。つきましては、閉会中の継続調査事件を所管どおりに引き継ぎいただくために、31番、公共交通についての調査研究を追加いただくものです。

本日追加を御決定いただきましたら、条例施行後に委員長から申し出をいただきまして、最終的に御議決をいただくこととなります。

○**鶴川委員長** 説明が終わりました。

この件について御質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、閉会中の継続調査事件の付託については、事務局案のとおりとしてよろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認めます。よって、閉会中の継続調査事件の付託については、事務局案のとおりといたします。

以上で本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして厚生文教委員会を閉会いたします。

皆様、御苦労さまでした。

午後1時54分 閉会